

つがい

森野 水琴

土曜日の朝、会社の屋外イベントが雨天で中止になった、とメールで夫に連絡された。イベント参加に乗り気ではなかった夫は安堵した。イベントは明日に順延されるので、このまま雨が降り続ければいいのにと夫は思った。

そのまま自宅で雨宿りする夫に、妻は微笑みながら食事の準備をする。

軒下では妻が吊るした黒い布の降る降る坊主が勝ち誇る。今回も遣^やらずの雨を降らせてくれた。

最近巢を作ったばかりの、つがいの鳥も仲良く雨宿りしている。

案の定、日曜日にも雨でイベントは中止された。

午後に雨が上がるまでの一日半、人も鳥も仲良く雨宿り。

妻は降る降る坊主の使い手として選ばれて生まれてきたことに、最近気づいたようである。

鳥は選ばれて、つがいになっ^ていることを知らない。

夫も妻も夫婦として選ばれたことを知らないで結婚したのだが、良い伴侶を選んだものだと満足している。勘違いしているのだが、選ばれた組み合わせなので、このまま睦まじく生きていくことだろう。

雄鳥は食料を求めて出かけた。

夫婦は空の虹を眺めながら、まどろんでいく。